

「子供たちの未来づくり」⑬

多様な大人の姿こそ

先日、ある中学校の玄関で、講話をお願いした「よのなか先生」の到着を待っていた。空は青く澄みわたり、涼やかな風が頬に気持ちいい、爽やかな初秋の午後のことだった。

「よのなか先生」は、真っ白なワイシャツに黒いスーツを着て現れた。事前打ち合わせに先生と一緒に会社を訪ねた時は、作業着姿だったので目を見張った。

100人を超える生徒たちが待つ教室へ向かう廊下を歩きながら、私は「ありがたいなあ」と、あらためて深い感謝の気持ちで湧いてきて、後姿におもわず頭を下げていた。

この人は、平日の昼間、仕事で何かと忙しく、大変なこともあるはずなのに、仕事を中断して、こうやってスーツに着替えて学校へ来てくれている。何と尊いことだろう。これが、日向の市民力の一つなんだと、心からありがたいと思った。

公教育は、すべての子供たちを受け入れる。選ばれた子供たちが通う学校だけでは、日本の将来を支える人財を育てることはできない。そこに公教育の役割と意義があるのだと思う。

しかし、学校現場に頻繁に通うようになって初めて知ったことだが、「意欲が低く、ヤル気のない」子供た

ちが何と多いことか。先生方の日頃のご苦労は、産業界にすつといた私にとつては、想像を絶するものだった。

親と先生だ

けない、他所の大人が学校に出向き、子供たちに語る、「よのなか教室」に登録いただいた方々が100人を超えた。しかし、学校からの要望は次々に増えている。早く300人位の「よのなか先生」をめざす必要が生まれている。様々な仕事や働き方や経験を持つ多様な大人の方々にご協力をお願いしたい。

新人も、中堅の人も、管理職の人も、社長さんも、お店を経営している人も、農林水産業の人も、仕事をリタイアした人も、すべての日向の大人の方々にご協力をお願いしたい。

多様な大人たちの、多様な価値観に触れることで、子供たちはきっとそのいずれかの話に心のスイッチが入り、将来への意欲を高めることができるようになるに違いないと思う。

文/日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲

